

第3回 2010年8月出発 参加者 ●内田 大輔さん、ホスト：延世大学校

1. 応募したきっかけ

普段とは異なる環境下に身を置いて、自分を成長させようという考えからです。海外では、日本で学べないことが多々あり、そういったことを積極的に知って、視野を広げようと思いました。韓国は、私の所属している研究室と関わりがありますし、長期的に滞在できるのは良い機会だと考えました。

2. 事前準備

語学については、渡航前に韓国語会話の本を買い、基本的な挨拶を勉強しておきました。本にCDがついていたので、それを出来るだけ毎日聞くようにして韓国語の定着を図りました。また、私の研究室には韓国からの留学生がいるため、発音などをチェックしてもらいました。

研究に関しては、ホスト先の教授が読みやすいようにA4 1枚に行おうと思っている研究案をまとめ、事前に送付して意見をもらいました。そして、あわせて自分が考えている研究計画も送付しました。また、自分のこれまでの研究成果をスライドにまとめておきました。

3. 現地研修

現在、無線通信においてアンテナの指向性を可変させる技術が求められています。

私は、それを実現させるための回路設計を行いました。基本的には、方向性は自分が主体となって決め、それに対して、ホスト先の教授や研究室の学生に意見をもらうという形で進めていきました。

研修期間中は、ホスト先の教授と、教授の部屋で1時間近くディスカッションをしたり、研究室のメンバーにどういったら自分の研究を理解してもらえるかを考えてプレゼンテーションをしたり、研究室の学生のプレゼンテーションで分からないところを積極的に質問したりと有意義な交流が図れたと思います。

4. この研修を通じて得たもの

研究室のメンバーとのつながりだと思います。一緒に遅く

まで残って研究したり、ウォータースポーツなどのイベントを楽しんだり、御飯を食べながら様々な話をしたり、韓国語と日本語を教え合ったりした結果、非常に親交が深まりました。研修活動の最終日に研究室を離れる時、研究室の建物の入り口で私の姿が見えなくなるまで手を振ってくれたのが印象的です。研究室のメンバーは今度学会で日本に来るため、そこで再会する予定です。日韓の交流の強化に少しでも貢献できたのではないかと考えています。

5. 参加する人へのアドバイス

研究研修期間中に基本的に使う言語は英語だと思いますが、少しでも良いので韓国語を話すようにした方が好印象を持たれると思います。自分が外国人だと言うスタンスではなく、出来る限り韓国の文化や慣習を学び、従うことが重要だと思います。また、外国に行くとなると、その国の事ばかりに目がいきがちですが、日本の事についてもきちんとできるようにしておいた方が良いです。例えば、日本の文化や慣習、同年代の人に対しては、アニメや映画、音楽などの娯楽の最低限の知識は持っていた方が良いです。そして、今回感じたのが、自分が積極的に動くことで何倍も充実した生活が送れるということです。やろうかやるまいか迷ったら、やってみてください。

